[6412][KESCO FAQ][COMSOL][マーカー無]トライアルパスコードを使用したCOMSOL Multiphysics®6.4のセットアップ

2025年11月26日　　9:30

【タグ】

物理分野

- ☐電磁気学
- ☐化学（電池・電気めっき・腐食）
- ☐流体/伝熱
- ☐構造/音響

カテゴリ

- ☑導入/変更
- ☐製品概要
- ☑チュートリアル

機能

- ☐エラーメッセージ
- ☑インストール
- ☐GUI/便利な機能
- ☐アプリケーションビルダー
- ☐メッシュ
- ☐ジオメトリ
- ☐材料
- ☐フィジックス
- ☐ポスト処理
- ☐スクリプト
- ☐ソルバー

【タイトル】

トライアルパスコードを使用したCOMSOL Multiphysics®6.4のセットアップ[6412]

【質問】

指定されたバージョンのCOMSOL Multiphysics®用トライアルパスコードを入手しました。
このコードを使用したCOMSOL Multiphysics®のセットアップの手順を教えてもらえないで

しょうか。

【回答】

ここでは以下を想定したインストール手順を説明いたします。

- 想定

1. ハードウェア
   【1.1】 ストレージは十分な空き容量があります（20GB以上）。
2. ネットワークおよびセキュリティ
   【2.1】LANもしくはインターネットにアクセスできます。
3. OS
   【3.1】 インストール先のプラットフォームはWindows®およびLinux®です。
   【3.2】 インストールする時点において、OSは更新プログラム等でアップデート済みです。
   【3.3】 インストール作業を行うユーザーアカウントは下記の権限を持っております。
   - Windows®の場合
     - 管理者（Administrator）
   - Linux®の場合
     - rootになることができます。
     - root権限のコマンド（sudo）を実行できます。
4. COMSOL Multiphysics®について
   【4.1】 指定されたバージョンは 6.4 (ビルド293) です。（注意 2 ）
   【4.2】 COMSOL Multiphysics®のインストール状態は下記の 3 つを想定します。
   【4.2.1】 指定されたバージョン用トライアルパスコードのCOMSOL Multiphysics®を初めてインストールします。
   【4.2.2】 指定されたバージョン用正式ライセンスのCOMSOL Multiphysics®が既にインストールされております。
      i. 今回、指定されたバージョン用トライアルパスコードのCOMSOL Multiphysics®を別の場所にインストールします。
      ii. 指定されたバージョン用正式ライセンスのCOMSOL Multiphysics®はアンインストールしません。
      iii. Windows®の場合、COMSOLのショートカットおよびスタートメニューのフォルダーは今回インストールする指定されたバージョン用トライアルパスコードのCOMSOL Multiphysics®へ上書きします。
      iv. Linux®の場合、COMSOLのシンボリックリンクおよびランチャーは今回インストールする指定されたバージョン用CPUラ

イセンスのCOMSOL Multiphysics®へ上書きします。

【4.2.3】 過去バージョン用正式ライセンスのCOMSOL Multiphysics®がインストールされております。

i. 今回、指定されたバージョン用トライアルパスコードのCOMSOL Multiphysics®を新規でインストールします。
ii. 過去バージョン用正式ライセンスのCOMSOL Multiphysics®はアンインストールしません。

注意１：ここで説明する内容は、COMSOL Multiphysics®のインストール手順です。インストール済みのライセンスファイルを今回入手したファイルで差し替えるといった手順ではない点にご留意ください。

注意２：指定されたバージョンである二けたの数値（例：64もしくは6.4）を ## と表記しますので、以降は読み替えてください。

- 手順の概要
  1. COMSOL Accessアカウントの作成
  2. COMSOL Multiphysics®セットアップファイルの入手
  3. トライアルパスコードを使ったCOMSOLのセットアップ（Windows®およびLinux®）

1. COMSOL Accessアカウントの作成

COMSOL社ウェブサイトの「ダウンロード(製品インストーラー)」をクリックすると、COMSOL Multiphysics®のインストール用ISOイメージファイルがダウンロードできるようになっております。

1. COMSOL Accessにログインし、下記URL のページを開きます。

【URL】https://www.comsol.jp/access/login

i. 既にCOMSOL Accessアカウントを作成済みの場合、登録済みの「E メール」と「Password」を入力して、[LOG IN]ボタンをクリックします。
ii. COMSOL Accessアカウントを作成していない場合、画面右下隅の「新規作成」のリンクをクリックして登録を行ないます。
    - COMSOL Accessアカウント登録を完了し、このアカウントを有効化するには、COMSOL社から送付される確認メールに記載されているリンクをクリックする必要があります。そのため、お客様ご自身が受

信できるメールアドレスで登録を行なってください。

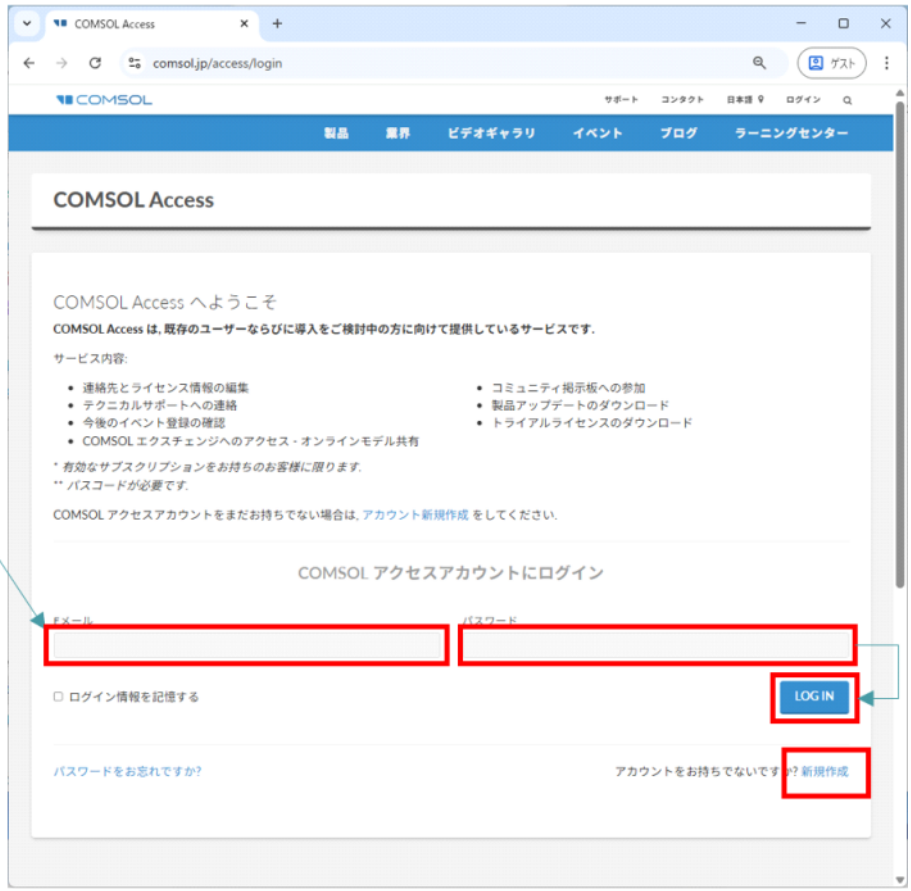

図1-1 COMSOL Access

iii. ログイン後、画面右上に表示されているお客様名をクリックします。すると、「COMSOL Accessアカウントへようこそ！」が表示されます。

iv. 画面右側にある「ライセンス管理（Manage Licenses）」をクリックし、「ライセンス管理」ページに移動します。

図1-2 COMSOL Access

v. 保守期間中のライセンスが表示されることを確認します。ライセンスが登録されていない場合や保守切れのライセンスが表示されると、最新版のCOMSOL Multiphysics®インストレーションにアクセスできません。このような場合、お手持ちの新しいライセンスファイルを「ライセンス追加（Add License）」ボタンで追加します。ライセンスについてご不明な点がある場合、担当営業にお問い合わせください。

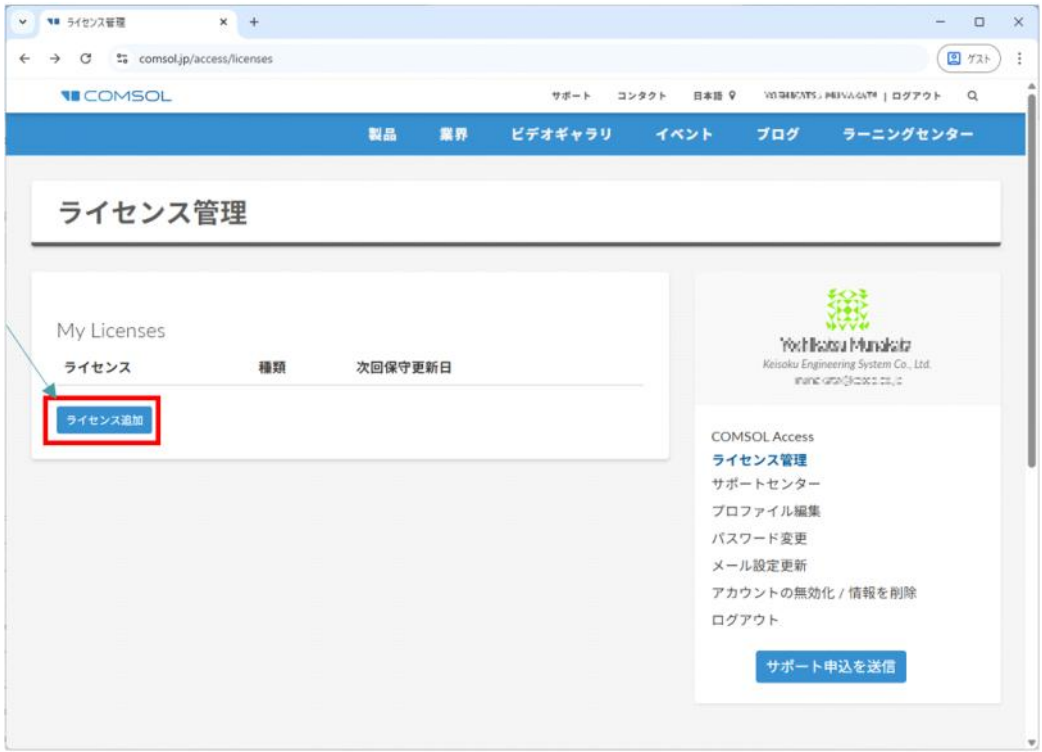

図1-3 ライセンス管理

2. COMSOL Multiphysics®セットアップファイルの入手

1. COMSOL 社ウェブサイトの「ダウンロード(製品インストーラー)」ページからCOMSOL Multiphysics®セットアップファイルをダウンロードします。

【URL】https://www.comsol.jp/product-download

画面を下側にスクロールすると、「オフラインインストレーション」枠があります。この中にあるダウンロードボタンをクリックします。

- 今お使いのOSがWindows®10またはWindows®11やLinux®の場合は、「ISO - Windows®/Linux® - **GB」ボタンをクリックします。
- Windows®10/11 では、ISOイメージファイル(拡張子*.iso)を仮想DVDディスクとしてドライブ名を割り当ててディスクとしてして内容を読み込める機能があります。その場合、物理DVDディスクの片面容量(4.9GB)を超え

るデータも取り扱い可能で、複数枚に分ける必要はありません。

【参考】macOS®の場合も同様で、インストール先のMacintosh®の搭載CPUがIntel®製CPUまたは Apple製 Apple M1® ~~CPU~~以降のいずれかを選択してダウンロードします。こちらも複数枚に分ける必要はありません。

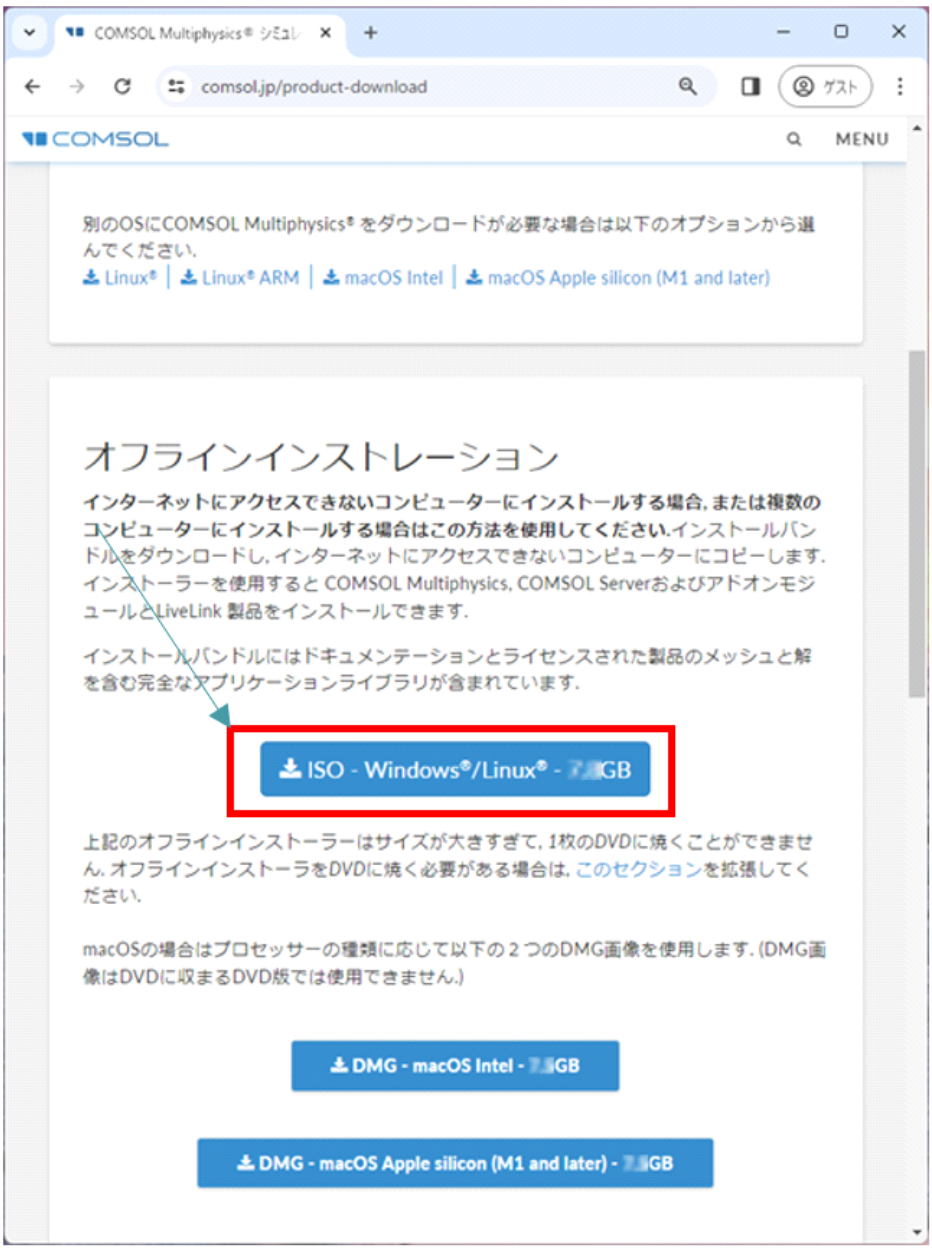

図2-1 オフラインインストレーションのダウンロード画面

2. ISOイメージファイルの関連付けを確認します。

   ダウンロードが完了すると、下図のようなISOイメージファイルのアイコンが表示されます。

   - ISOイメージファイルの場合、ファイル/プログラムの関連付けが「エクスプローラー」以外になっていると、期待した動作結果にならない場合があります。念のため「プロパティ」で「エクスプローラー」に関連付けされていることを確認します。

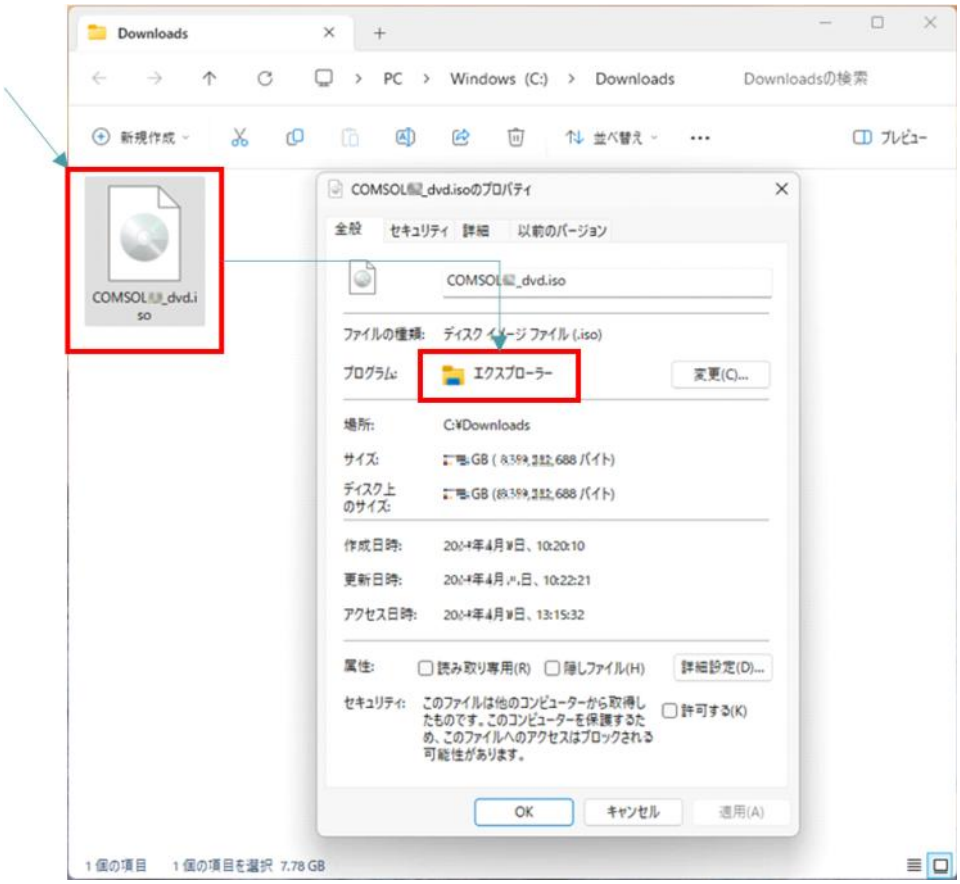

図2-2 ISOイメージファイルの関連付け

3. トライアルパスコードを使ったCOMSOLのセットアップ（Windows®および Linux®）

マシンにトライアルパスコードを使ったCOMSOL Multiphysics®のインストール方法を示します。

1. 管理者権限を持ったユーザーアカウントでOSにログインします。
   - [Windows®の場合]

     Administrator権限を持つユーザーカウントでログインします。

図3-1 Windows®のデスクトップ画面

- [Linux®の場合]

  Linux®のデスクトップ環境にroot権限を持つユーザーアカウントでログインします。

  注意：対話形式でCOMSOL Multiphysics®をインストールする場合、GUIを備えたデスクトップ（例：統合デスクトップ環境）でログインする必要があります。

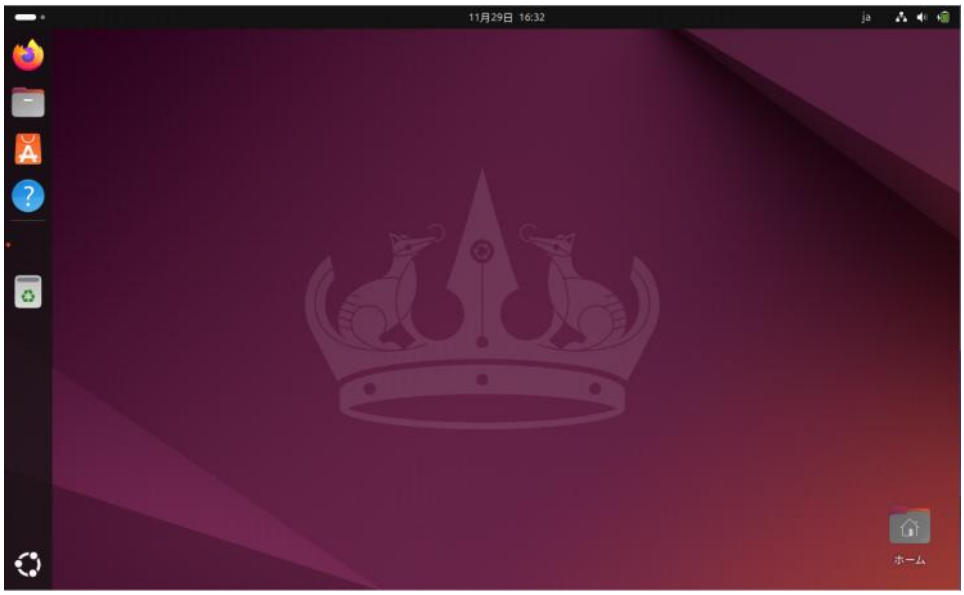

図3-2 Linux®（Ubuntu®）デスクトップ画面

2. ダウンロードしたISOイメージファイルを仮想DVDとしてマウントします。
   - [Windows®の場合]
     i. ダウンロードしたISOイメージファイルのアイコンをダブルクリックします。
     ii. 下図のように仮想DVDドライブ(この場合はD:)が表示されます。

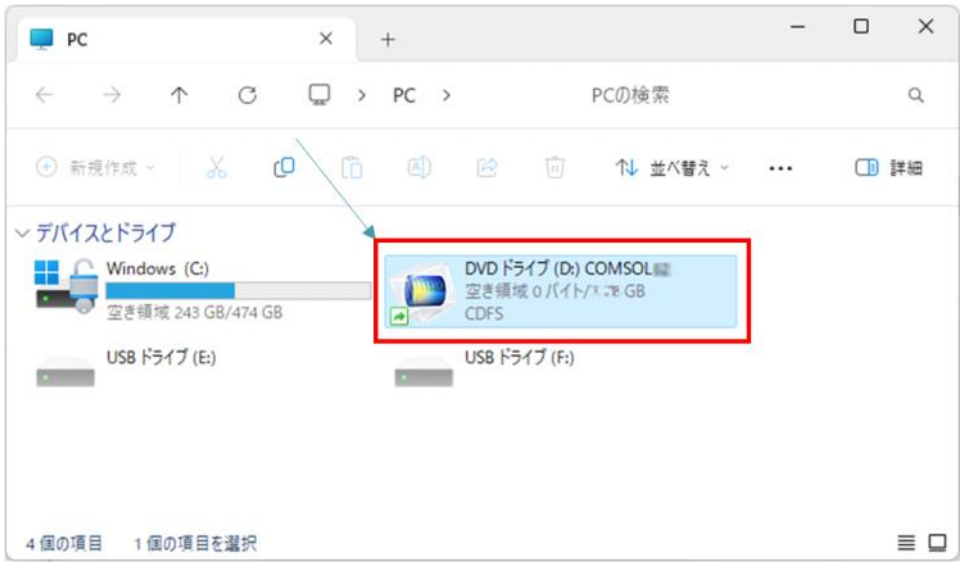

図3-3 仮想DVDとしてマウントされたISOイメージファイル（Windows®）

- [Linux®の場合]
  - [GUI]
    a) ダウンロードしたISOイメージファイルのアイコンをダブルクリックします。
    b) 仮想DVDがマウントされます。
    c) ターミナルを起動し、マウントした仮想DVDのディレクトリを下記コマンドで確認します。

    コマンド例：

    $ df

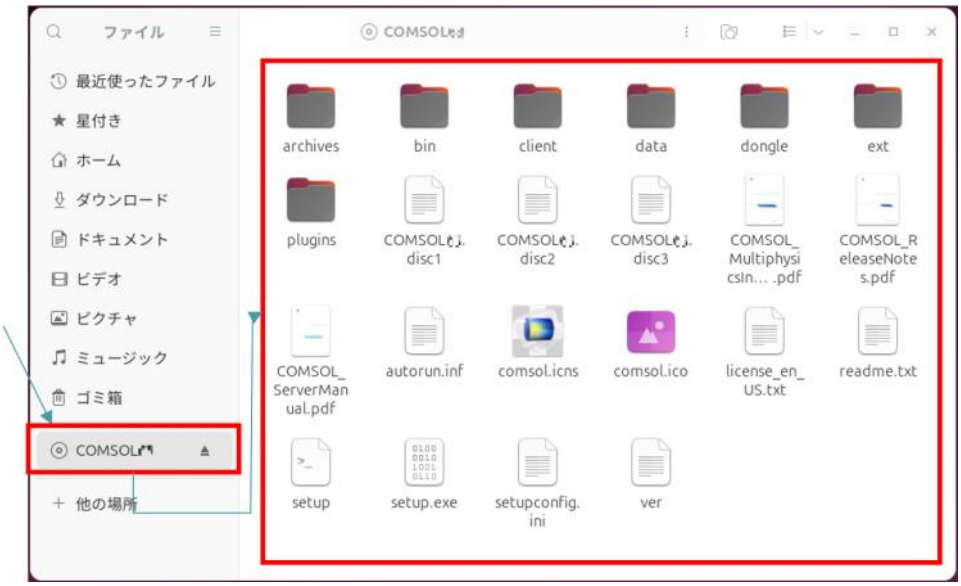

図3-4 仮想DVDとしてマウントされたISOイメージファイル（Linux®）

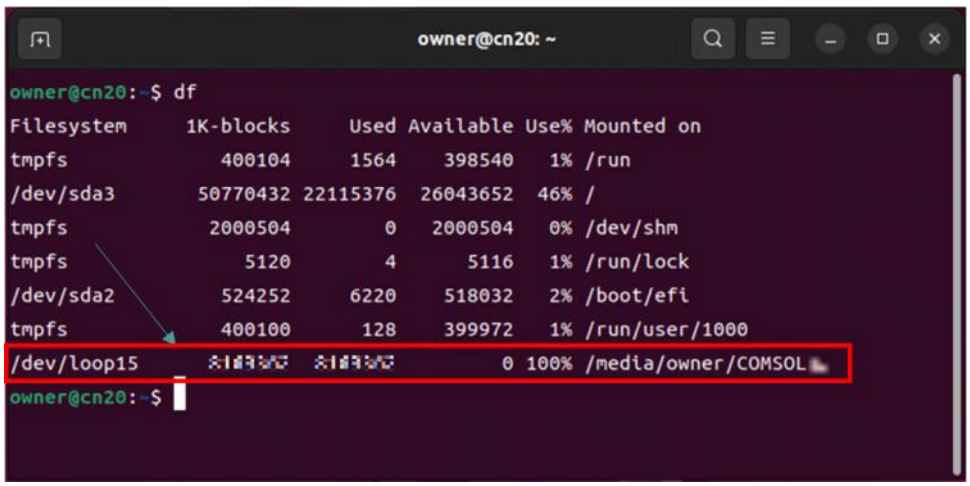

図3-5 マウント位置の確認（dfコマンド）

  - [CLI]
    a) 指定したディレクトリにISOイメージファイルをマウントするため、下記コマンドを実行します。（注意１～注意４）

    コマンド例：

$ sudo mkdir -p /media/COMSOL##

$ sudo mount -o loop -t iso9660 ./COMSOL##_dvd.iso /media/COMSOL##

注意１：##は指定されたバージョンの数値に変更します。

注意２：mountコマンドはroot権限で実行しなければなりません。上記コマンド例の場合、sudoコマンドで対応しております。

注意３：コマンドを実行する場合、改行せずに一行で入力します。

注意４：mountコマンドを実行すると、「WARNING: source write-protected, mounted read-only」といったメッセージが出力されますが、これは読み取り専用であることを示しております。インストール作業に支障はきたしません。

図3-6 ISOイメージファイルのマウント（mountコマンド）

3. “COMSOL インストーラー”を起動します。
   - [Windows®の場合]

     setup.exeファイルをマウスで右クリック、コンテキストメニュー>[管理者として実行]で起動します。

     注意：拡張子を表示していない場合、見た目で「setup」が二つ存在しますのでご注意ください。ちなみに拡張子が付いていない「setup」はLinux®のスクリプトです。

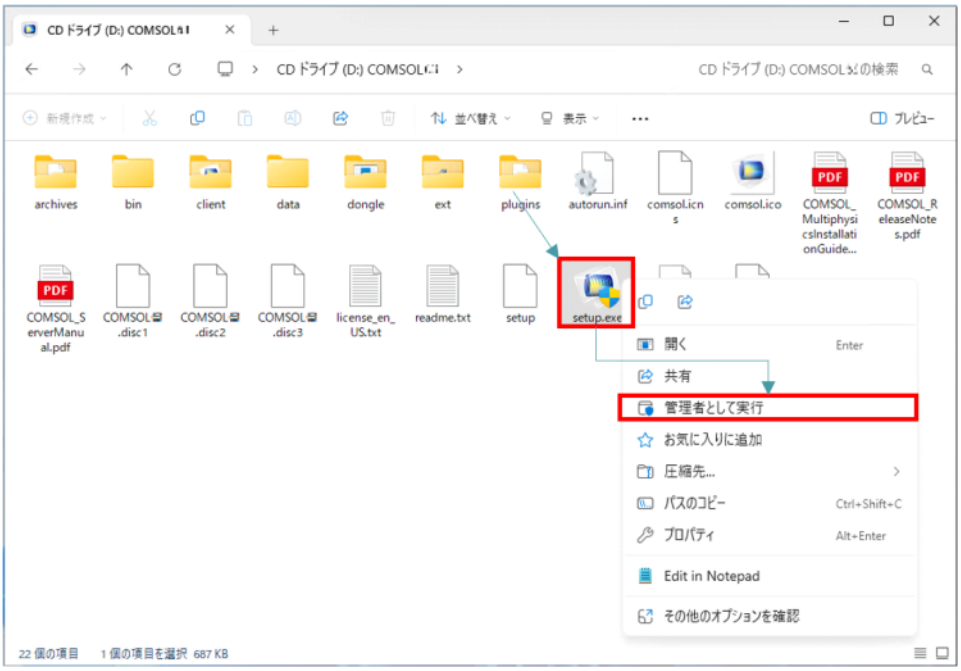

図3-7 「管理者として実行」で起動するsetup.exeファイル

- [Linux®の場合]

  ターミナルを開き、setupファイルが格納されたディレクトリに移動した上、管理者権限（sudo）でインストーラーを起動します。

  $ sudo ./setup

⇒ “COMSOL インストーラー”のGUI画面が起動されます。

図3-8 ルートコマンドで実行するsetupファイル

4. “COMSOL インストーラー”のGUI画面で、下記操作を実行します。
   i. “日本語（Japanese)” のラジオボタンをオンにします。
   ii. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒ 次の画面へ移行します。

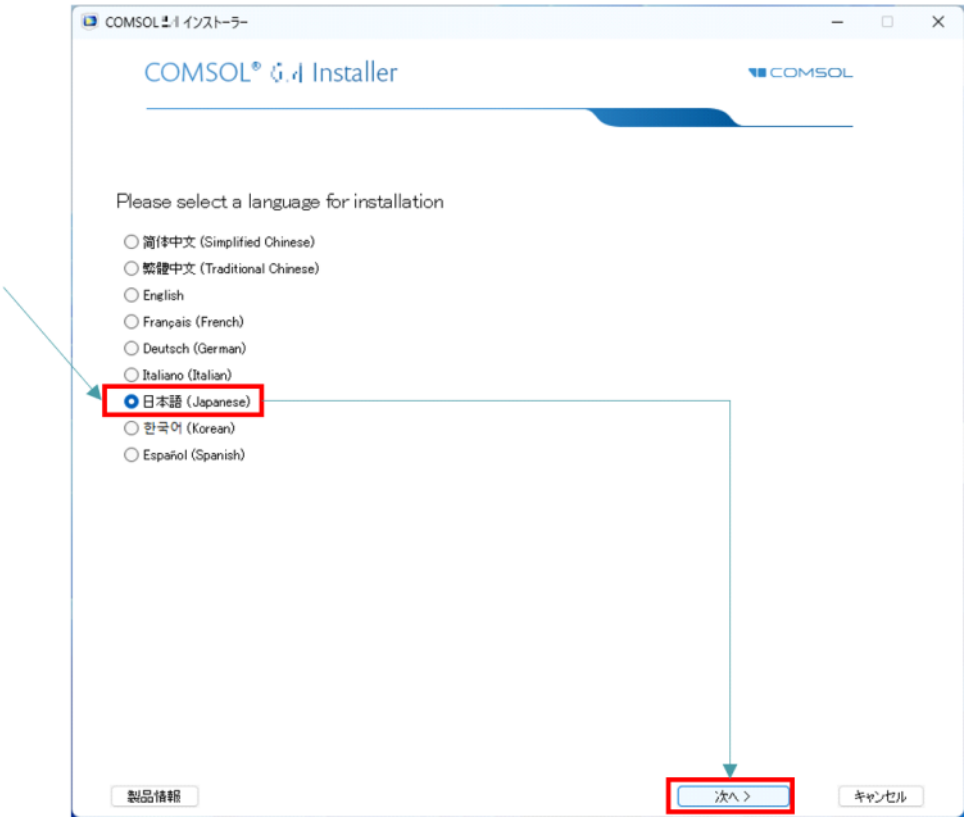

図3-9 言語選択画面

5. メニュー画面で、下記操作を実行します。
   i. “新規COMSOLインストール”のアイコン をクリックします。

⇒次の画面へ移行します。

図3-10 メニュー画面

6. “ライセンス”画面で、下記操作を実行します。
   i. “私はこのライセンス契約の条項に同意し、これを受け入れることで他の全ての条項が拒否されることを 理解し認めます”の ラジオボタンをオンにします。
   ii. “ライセンス書式”ドロップダウンリストから “パスコード”を選択します。
   iii. “パスコード”エディットボックスに、パスコードを入力します。
   iv. "名前"と"会社"にお客様のお名前と貴社名（もしくは所属名）を入力します。
   v. [次へ >]ボタンをクリックします。

   ⇒次の画面へ移行します。

   注意：コピー＆ペーストを行う場合、半角スペースが混入しないように確認します。

   注意：それでもエラーが表示される場合、文末の問い合わせ先にご連絡ください。

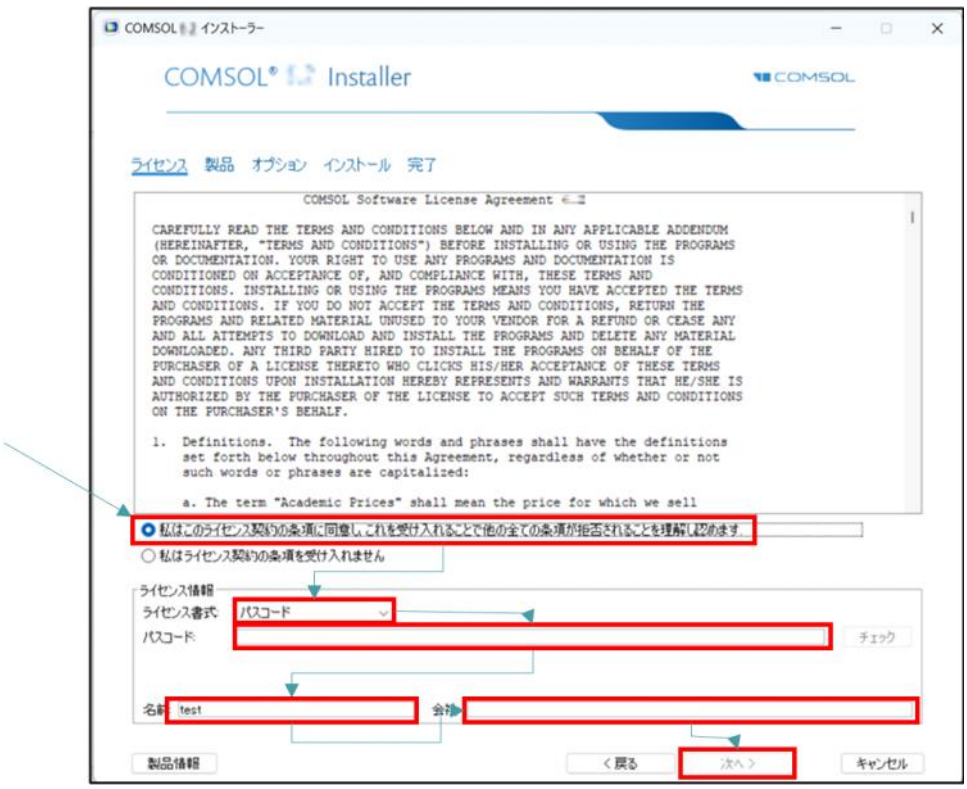

図3-11 ライセンス画面

7. “製品”画面で、下記操作を実行します。
   - [Windows®の場合]
     i. 画面左側に[インストールする製品を選択してください]が表示されます。ここでは、クイック選択を含めてこのままにしておきます。
     ii. 画面右側に[アプリケーションライブラリ]と[ドキュメンテーション]のラジオボタンが表示されております。同様にこのままにしておきま

す。

iii. “インストール先フォルダー”は初期設定で下記のようになっております。（注意１～注意３）

- “C:¥Program Files¥COMSOL¥COMSOL##¥Multiphysics”

iv. 画面右下に必要なディスク容量とインストール先ディスク空き容量が表示されます。この容量が十分にあることを確認します。（注意４）

v. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒次の画面へ移行します。

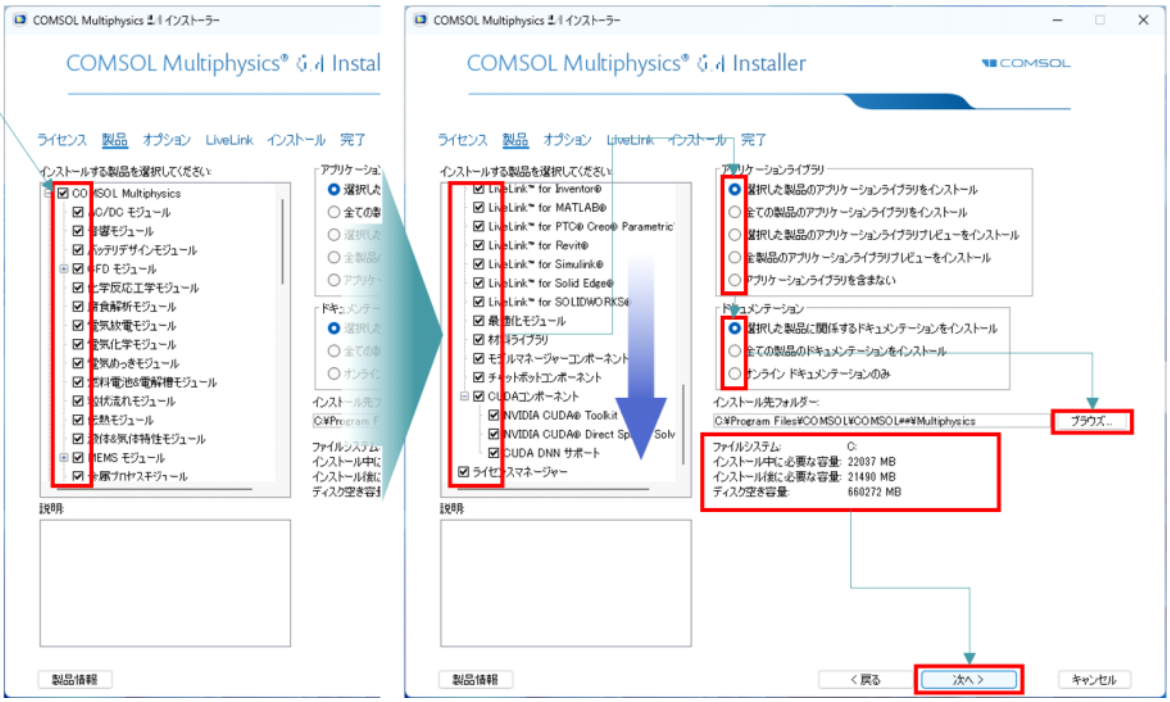

図3-12 Windows®での製品画面

注意１：“インストール先フォルダー”のパスに２バイト文字コード（例：日本語）が含まれていると、インストールできない可能性があります。その場合、２バイト文字コードが含まれないよう、フォルダを変更します。

注意２：当該バージョンのCOMSOL Multiphysics®を追加インストールする場合、[ブラウズ...]ボタンをクリックし、インストール先を変更します。

[変更例]：“C:¥Program Files¥COMSOL¥COMSOL## ¥Multiphysics_trial”

注意３：##は指定されたバージョンの数値に変更します。

注意４：ディスク空き容量が足りませんと、[次へ] をクリックした時にエラーが出て処理が継続できません。その際は“インストール先フォルダー”の [ブラウズ...] ボタンをクリックし、別ドライブのフォルダーを選択するといった方法等で対応します。

- [Linux®の場合]

i. 画面左側に[インストールする製品を選択してください]が表示されま

す。ここでは、クイック選択を含めてこのままにしておきます。

ii. 画面右側に[アプリケーションライブラリ]と[ドキュメンテーション]のラジオボタンが表示されております。同様にこのままにしておきます。

iii. “インストール先フォルダー”は初期設定で下記のようになっております。（注意１～注意３）

- /usr/local/comsol##/multiphysics

iv. 画面右下に必要なディスク容量とインストール先ディスク空き容量が表示されます。この容量が十分にあることを確認します。（注意４）

v. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒次の画面へ移行します。

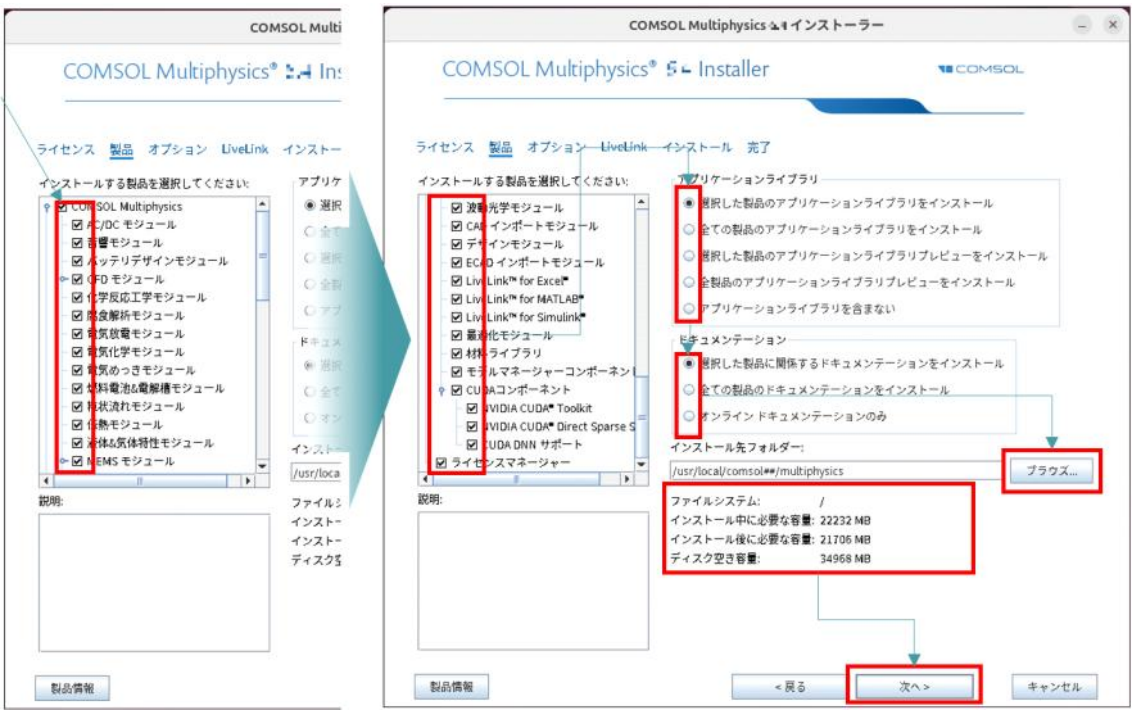

図3-13 Linux®での製品画面

注意１：“インストール先フォルダー”のパスに２バイト文字コード（例：日本語）が含まれていると、インストールできない可能性があります。その場合、２バイト文字コードが含まれないよう、フォルダを変更します。

注意２：当該バージョンのCOMSOL Multiphysics®を追加インストールする場合、[ブラウズ...]ボタンをクリックし、インストール先を変更します。

- [変更例]：/usr/local/comsol##/multiphysics_trial

注意３：##は指定されたバージョンの数値に変更します。

注意４：ディスク空き容量が足りませんと、[次へ] をクリックした時にエラーが出て処理が継続できません。その際は“インストール先フォルダー”の [ブラウズ...] ボタンをクリックし、別ドライブのフォルダーを選択するといった方法等で対応します。

8. “オプション”画面で下記操作を実行します。
    - [Windows®の場合]
        i. デフォルトの設定を確認します。
            - [✓]Windowsデスクトップ上にCOMSOL Multiphyics##ショートカットを作成（注意１）
            - [✓]WindowsスタートメニューにCOMSOL Multiphysics##フォルダーを作成（注意１）
            - [✓]COMSOLプログラムのためのWindowsファイアウォールルールを追加（注意２）
            - [　]セキュリティポリシーを設定（注意３）
            - グラフィックスとプロットウィンドウにおけるデフォルトフォント
                - ファミリー: [Vera]
            - アップデート
                - [✓]インストール後アップデートをチェック
                - [　]アップデートに関する自動チェックを有効化
                - [　]新しいリリースの自動チェックを有効にする
            - Javaランタイム環境 [標準] （注意４）
        ii. デスクトップ上のショートカット、スタートアップメニュー作成、mphファイルの関連付けに関して、不都合がなければ初期設定のままにしておきます。 また、Windows®ファイアウォールルールおよびび Microsoft®用の各インターフェースは、マシンの運用に則って設定します。
        iii. [次へ >]ボタンをクリックします。

    ⇒ 次の画面へ移行します。

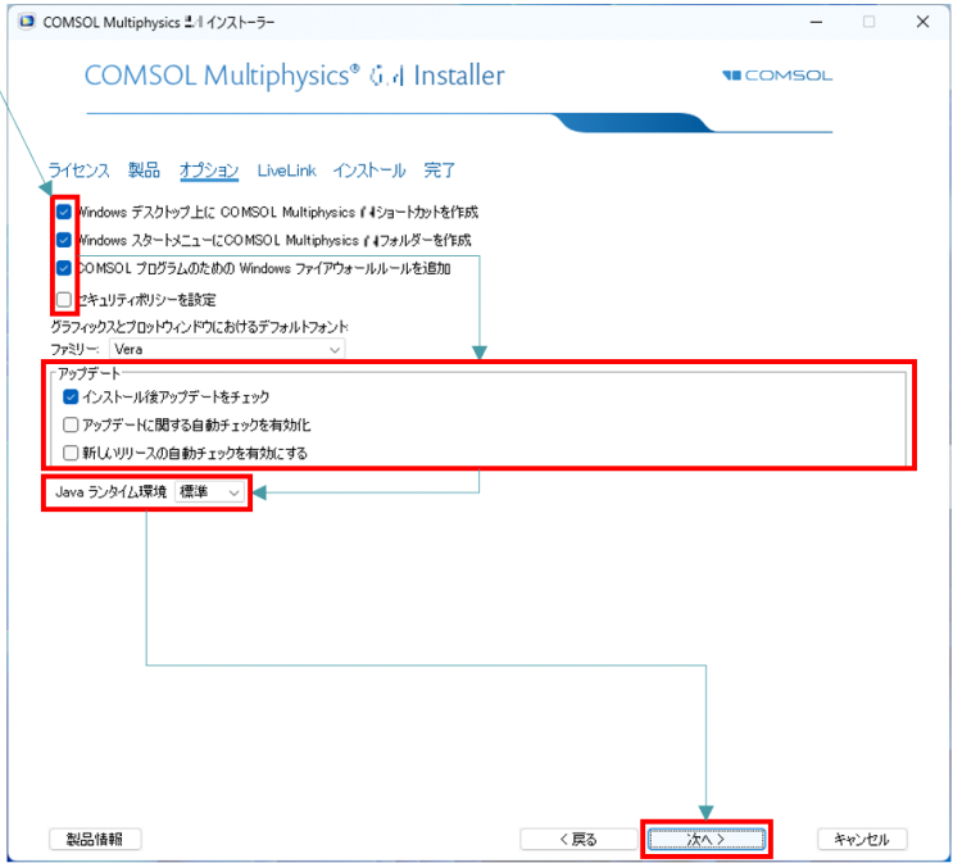

図3-14 Windows®でのオプション画面①

注意１：指定されたバージョンのCOMSOL Multiphysics®が既にインストールされている場合、登録されているCOMSOL Multiphysics®のショートカットもしくはフォルダーを上書きします（想定 4.2.2 iii（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか））。

注意２：COMSOL Multiphyics®に関する受信側のファイアウォールルールを追加します。

注意３：セキュリティポリシーをデフォルトから変更したい場合、チェックマークを入れます。その後、追加されるセキュリティタブでセキュリティポリシーの設定を変更します。この設定はセットアップが終了した後でもCOMSOLデスクトップの[ファイル]>[環境設定...]>[セキュリティ]で変更できます。

注意４：ここでいう[標準]は Built-in（COMSOL Multiphysics®のためにJava™ランタイム環境を組み込む） です。別のJava™ランタイム環境を使用したい場合、[カスタム]に変更し、後段に絶対パスを設定します。

iv. 同様にデフォルトの設定を確認します。

- [✓]mphファイルタイプをこのインストレーションと関連付ける（注意５）
- [✓]モデルマネージャーサーバーのWebインターフェースのリンクをこのインストールに関連付ける
- Microsoft PowerPoint®用インターフェース
  - Microsoft PowerPoint®用インターフェース（注意６）

- 現ユーザーにインストール
  - Microsoft Word®用インターフェース（注意６）
    - 現ユーザーにインストール

v. デスクトップ上のショートカット、スタートアップメニュー作成、mphファイルの関連付けに関して、不都合がなければ初期設定のままにしておきます。 また、Windows®ファイアウォールルールおよびmicrosoft®用の各インターフェースは、マシンの運用に則って設定します。

vi. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒ 次の画面へ移行します。

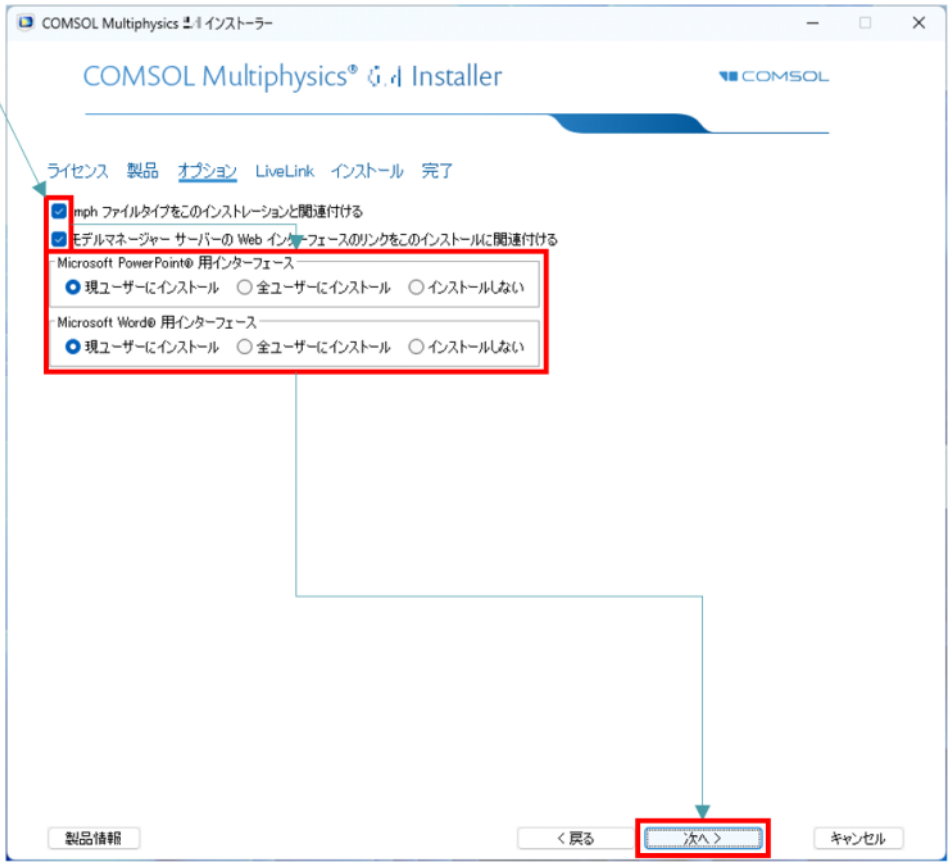

図3-15 Windows®でのオプション画面②

注意５：複数のライセンスタイプ（例：トライアルパスコードとCPUライセンス）や複数バージョンのCOMSOL Multiphyics®をご利用いただいている方向けの注意事項です。mphファイルをこのインストレーションで関連付けすると、それまでの関連付けが外れますのでご注意ください。できましたら、トライアル終了後を見据え、このインストレーションでは、mphファイルタイプの関連付けのチェックを外してセットアップすることをお勧めします。

注意６：セットアップしたCOMSOL Multiphysics®を現ユーザーで運用する場合は「現ユーザーにインストール」とし、マルチユーザーで運用する場合は「全ユーザーにインストール」を選択します。

- [Linux®の場合]

i. デフォルトの設定を確認します。
   - [✓]COMSOLランチャー作成（注意１）
   - [✓]シンボリックリンクを/usr/local/binに作成（注意１）
   - [　]セキュリティポリシーを設定（注意２）
   - [✓]インストール後アップデートをチェック
   - [　]アップデートに関する自動チェックを有効化
   - [　]新しいリリースの自動チェックを有効にする
   - Javaランタイム環境 [標準]（注意３）

ii. 特に問題がなければデフォルトの設定にしておきます。

iii. [次へ >]ボタンをクリックします。

図3-16 Linux®でのオプション画面

注意１：指定されたバージョンのCOMSOL Multiphysics®が既にインストールされている場合、登録されているCOMSOL Multiphysics®のロンチャーもしくはシンボリックリンクを上書きします（想定 4.2.2 iv（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか））。

注意２：セキュリティポリシーをデフォルトから変更したい場合、チェックマークを入れます。その後、追加されるセキュリティタブでセキュリティポリシーの設定を変更します。この設定はセットアップが終了した後でもCOMSOLデスクトップの[オプション]>[環境設定...]>[セキュリティ]で変更できます。

注意３：ここでいう[標準]は Built-in（COMSOL Multiphysics®のためにJava™ランタイム環境を組み込む） です。別のJava™ランタイム環境を使用したい場合、[カスタム]に変更し、後段に絶対パスを設定します。

9. “LiveLink”画面で下記操作を実行します。
    i. LiveLink™モジュールをインストールする場合、画面に表示されている各製品（例：MATLAB®）のインストールフォルダーを指定します。

       注意：LiveLink™モジュールが不要である場合、この画面は無視してください。

    ii. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒ 次の画面へ移行します。

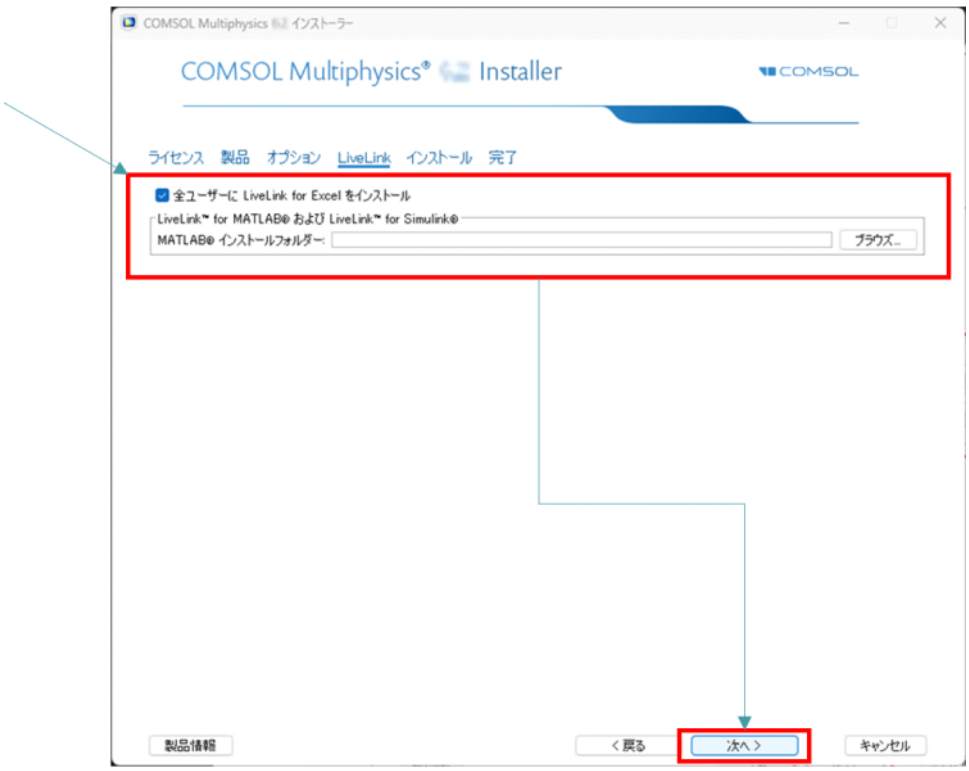

図3-17 LiveLink画面

10. “インストール”画面で下記操作を実行します。
    i. [インストール]ボタンをクリックします。

⇒インストールが開始されます。

⇒インストールが終了すると、次の画面へ移行します。

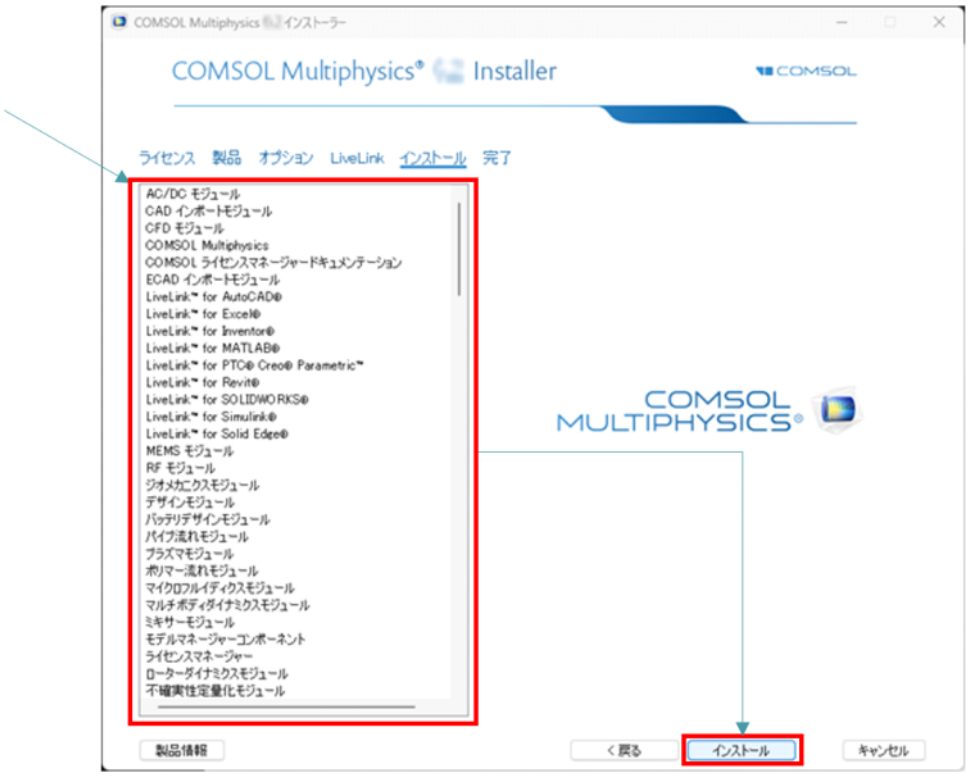

図3-18 インストール画面

【参考】オンラインインストーラーでCOMSOLをインストールすると、「ファイルダウンロード中にエラー」が発生する場合があります。これはネットワークセキュリティによって COMSOL社のダウンロードサーバーに接続できないことが原因として考えられます。回避策はオフラインインストーラーをご利用いただく方法となります。詳細は「2. COMSOL Multiphysics®セットアップファイルの入手」もしくは下記リンクをご参照ください。

- KESCO FAQ：ファイルダウンロード中にエラー　ダウンロードサーバーへの接続をできませんでした（URL https://kesco.co.jp/support/9749/ を埋め込んでもらえないでしょうか？）

（空白行を一行入れてください）

- エラーメッセージ

  COMSOL

  ファイルダウンロード中にエラー

  ダウンロードサーバーへの接続をできませんでした

図3-19 ファイルダウンロード中にエラー

11. “完了”画面で、下記操作を実行します。
    i. インストール中に発生したワーニングやエラーを確認するため、「ログを見る」ボタンをクリックします。
    ii. ログに記載されている「WARNINGS」、「ERRORS」、「FATAL ERRORS」がゼロであることを確認します。
    iii. ログの[閉じる]ボタンをクリックした後、インストーラーの[閉じる]ボタンをクリックします。

    ⇒“COMSOL インストーラー” が閉じます。

    注意：「ERRORS」や「FATAL ERRORS」が出力されると、ほとんどの場合、COMSOL Multiphysics®は起動できません。その場合、文末の問い合わせ先にご連絡ください。

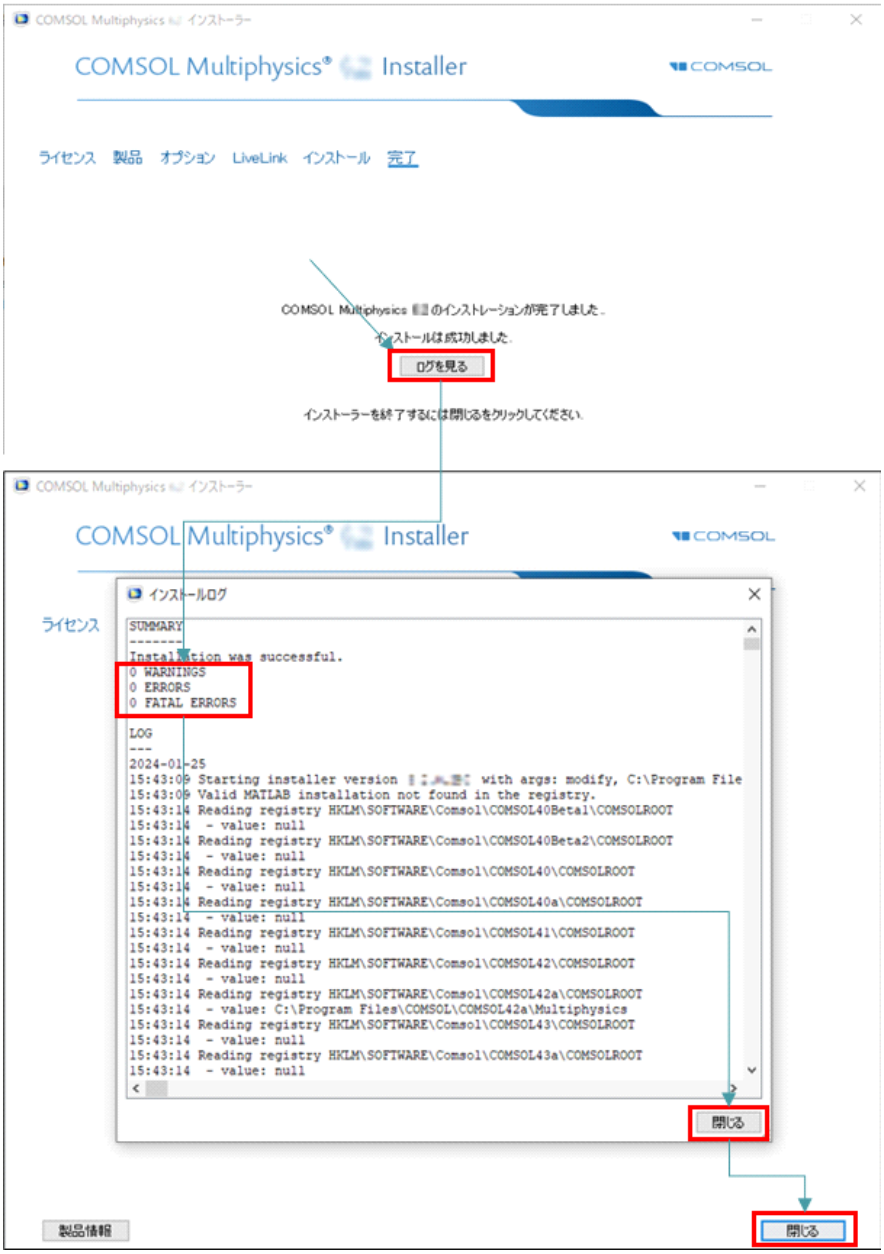

図3-20 完了画面およびインストールログ画面

12. マウントしていた仮想DVDを取り出します。
    - [Windows®の場合]
        i. エクスプローラーを起動し、マウントしている仮想DVDドライブ（この場合はD:）のアイコンを右クリック、コンテキストメニュー＞[取り出し]をクリックします。

    ⇒仮想DVDドライブが消えます。
    - [Linux®の場合]
        - □ [GUI]
            a) setup が終了すると、ターミナルは入力待ちになります。仮想DVDをアンマウントするため、この画面を閉じます。
            b) デスクトップ環境のファイルマネージャー（例：Nautilus）を起動します。
            c) サイドバーに表示されている [COMSOL##] を右クリック、コ

ンテキストメニュー>[アンマウント]をクリックします。（注意１）

⇒ [COMSOL##] が消えます。

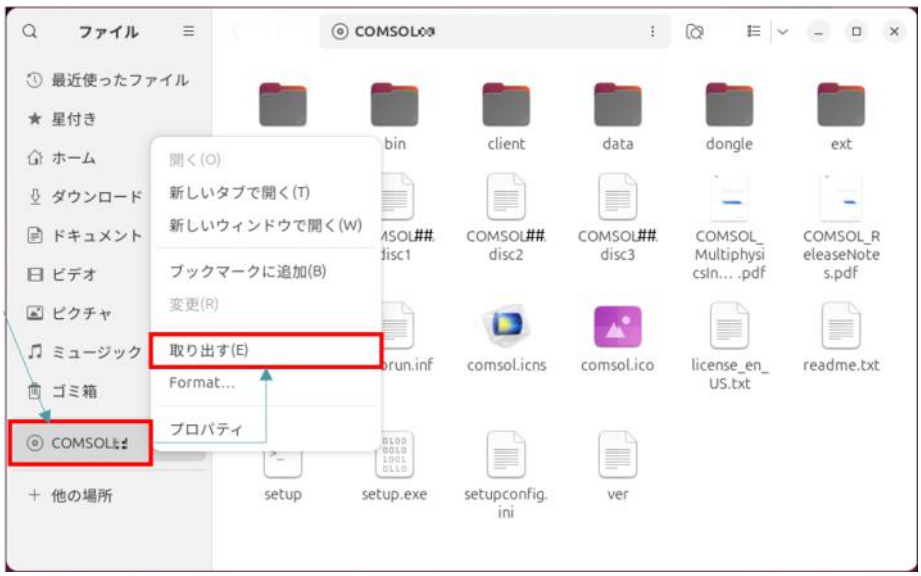

図3-21 ファイルマネージャーによるメディアの取り出し

□ [CLI]

a) 3. で起動した setup が終了すると、ターミナルは入力待ちになります。カレントディレクトリをホームディレクトリに移動し、仮想DVDをアンマウントします。併せてマウントディレクトリを削除します。（注意１）

コマンド例：

```
$ cd ~
$ sudo umount /media/COMSOL##
$ sudo rmdir /media/COMSOL##
```

注意１：##は指定されたバージョンの数値に変更します。

• 問い合わせ先

COMSOL Multiphysics®を正常にセットアップできない場合、下記情報を収集していただき、弊社の問い合わせ窓口にご送付ください。

- 問い合わせ先

  KESCO担当営業が「トライアルパスコード」をお客様に発行した場合⇒①

  KESCO営業企画部が企画したセミナーで「トライアルパスコード」をお客様に発行した場合⇒②

①	窓口：KESCO担当営業 Eメール：KESCO担当営業のメールアドレス
②	窓口：営業企画部 セミナー担当 Eメール：seminar@kesco.co.jp

- お寄せいただきたい情報

i. エラーメッセージをキャプチャーした画像ファイル
ii. トライアルパスコード
iii. COMSOLインストールログファイル（下記）

- COMSOLインストールログファイルのデフォルト保存場所（注意１）
  - [Windows®の場合]

    "C:¥Program files¥COMSOL¥COMSOL##¥Multiphysics¥comsolsetup.log"

  - [Linux®の場合]

    /usr/local/comsol##/multiphysics/comsolsetup.log

  注意１：##は指定されたバージョンの数値に変更します。

以上